

白浜町教育委員会 会議の結果

件名	平成29年度 9月定例教育委員会
日時	平成29年9月22日(金) 午後2時00分～午後2時43分
場所	教育委員会 会議室
出席者	○教育委員 山中教育長、尾崎委員、辻委員、二杉委員、藤藪委員 ○職員 高田教育次長、新田教育次長補佐、小河畑教育次長補佐、山中中央公民館長、柴田置川教育事務所長、成田教育指導係長、岡田総務学事係長、玉本生涯学習係長、辻田図書館係長、岡山教育指導係指導主事

1. 教育委員長開会あいさつ

時間となりましたので始めさせていただきます。皆さん、こんにちは。

定例教育委員会の前に、ご報告させていただきます。

本日の出席委員は、5名ですので、会議は成立しております。

ただ今から9月定例教育委員会を開会します。

本日は、協議報告事項4件について、ご協議をいただきたいと思います。ご審議よろしくお願いたします。

2. 会議録署名員の氏名

会議録署名委員に尾崎委員が指名される。

3. 付議事項

4. 協議報告事項

①協議報告事項 平成29年白浜町議会第3回定例会一般質問について、教育次長より説明を行った。

【質疑応答】

藤藪委員

堀議員さんのクラブ活動についての質問で、堀議員さんはこの方向性でいって欲しいということですか。それとも、このように決まったから、これに従わなければいけないと思っておられるんですか。

教育次長補佐

堀議員さんは地域でやっているスポーツが通う予定の学校にないという相談を受けておられる。田辺市で社会体育部を設置している事例があるので、少子化にも進んでいく中で、取り組みが必要でないか。今後の課題であるとおっしゃってました。

藤藪委員

クラブ活動のあり方というのは県がこういうふうに決めてくると白浜町も従わないといけないのですか。

教育指導係長

県の方から方針が出まして田辺西牟婁の教育委員会で話をしました。その中で、子ども達の体の面、教師の勤務時間の面など色々なことを考慮したうえでこれが最善だとい

う判断をしております。

藤藪委員

最近、私が見るに子どもが弱くなったなと感じるのです。そういう認識はもたれてますでしょうか。

教育指導係長

子どもが弱くなったという部分は、全体的にいいますと体力テストの結果などを見ても落ちているのが現状かなと思います。ただ、クラブ活動を休み無しに行うことが、子ども達の体力向上につながるかという、また少し違うのかなと考えております。以上です。

藤藪委員

これは完全に個人的な意見なのですが、クラブ活動が全てだと思っているわけではなくて、全体を通して考えてみると一つ一つ子どもが弱くなっているという認識があるにもかかわらず、色んなところで子どもの環境整備であったりとか、子どもの教育のあり方であったりとか、一つ一つ弱い方向へ進んでいくようにしてるように思うのですが、その辺の議論というか、この方針が最善ではないかという結論に至った経緯とか、説明があれば嬉しいのですが。私は県の指針には実は反対なのです。専門の先生の意見も聞いてみたいと思います。

山中教育長

答えはなかなかでないと思いますので、意見として聞いておいてよろしいですか。

藤藪委員

本当に意見として会議録にも残していただければと思うのですが、基本的には良い方向に進んでいるとは思ってないです。学校の先生方の負担については、そのとおりだと思います。そこに意見があるわけではなくて、学校の先生方がずっとクラブ活動でほぼ休み無しに学校に出ておられる現状は改善の余地があるなど、正直思っているのです。そこと合わせて考えると、確かに週一回の休みは必要だということも出てくるでしょうし、その辺に理解がないわけではなくて、子供の体力というよりも精神力とかそういったところの強さをどうやって養っていくかについては、まだまだ議論の余地があるのではないかと思っているところです。専門家の意見を聞ける場が欲しいというところで機会を作っていただけたら嬉しいです。

辻委員

部活動のついては中学校の学習指導要領の中でしなければならない教科のような、一つとして今も位置づけられていますか。

教育指導係長

現在の段階では、しなければならないと位置づけられていません。

藤藪委員

スパスポの位置付けは教育委員会の中にあるんですか。

生涯学習係長

totoの助成金を受ける関係上で教育委員会も運営委員の中には事務局に教育委員会も委員として入っております。運営に関しましては一切、意見をするとか、行事の組み立てとかに係ってはおりません

藤藪委員

堀議員さんの質問はきっと少年野球やそういったものも含めスパスポも意見の中に入ってくるのではないかと思うんですけど、私たちが考えないといけないことはありますか。

教育次長補佐

堀議員さんおっしゃるには、水泳でスイミングスクールへ通っている方や、あと、この辺の部活にない空手道や柔道等というそういう競技をずっとやってきた子どもがスイミングスクール通ったり、道場へ通ったりしながら、別の運動部へ入って運動部やりながら休みの日とか夜とか通うことが、子どもに体力的にも、時間的にも負担になるのではないかと、それをクラブ活動の一環で習い事をクラブのような形を認めて、専念できるようにしたいという保護者の要望を聞くことがあるのでこの質問をされた。この県の指針についてはなんとも言うてはないです。子どもの考えた時に親からそういう相談を受けるので、実態はどうなのと言う話です。

辻委員

それに関連して、例えば水泳で中学校の県大会、近畿大会や全国大会へ出場する場合は必ず教員の引率が必要ですよね。おそらく管理職が引率しますよね。もし出場する競技が3つも4つも重なった場合は引率できない。

教育指導係長

実際、今、お話にありました水泳部等は管理職が引率することで大会に出場しております。答弁の中にもありましたが、出場種目が多くなると引率も難しくなってくるということも考えられます。

②報告事項 全国学力・学習状況調査結果について、教育指導係長より説明を行った。

【質疑応答なし】

③協議報告事項 白浜町立図書館開館40周年記念事業について、図書館係長より説明を行った。

【質疑応答なし】

④協議報告事項 全日本海員組合「海に親しむ活動」について、教育次長補佐より説明を行った。

【質疑応答なし】

5. 秘密会